



国語の授業づくり

ハンドブック



国語の授業づくりのポイントをまとめました。
日々の授業づくりの参考資料としてご活用ください。

【内容】

1. 国語科の授業とは
2. 「話すこと・聞くこと」の指導
3. 「書くこと」の指導
4. 「読むこと」の指導：物語（文学的文章）
5. 「読むこと」の指導：説明文（説明的文章）
6. 指導事例
 - ・「読むこと」の指導事例【2年生】（文学的文章）
 - ・「読むこと」の指導事例【3年生】（説明的文章）
 - ・「読むこと」と「書くこと」を関連させた指導事例【4年生】（文学的文章）
 - ・「話すこと・聞くこと」と「書くこと」を関連させた指導事例【6年生】（説明的文章）



1 国語科の授業とは

1. 国語科では何をめざすのか



国語科は、様々な事物、経験、思い、考えなどを、言葉を使って理解し、どのように表現するのかということ学ぶ教科です。つまり、**言葉で考え、表現する能力を育成する**教科であるといえます。教材の内容を詳細に教えることなく、言語活動を通して、**言葉で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること**が大切です。

POINT

指導の拠り所は、学習指導要領です。国語科の目標や、国語科で育成をめざす資質・能力は、学習指導要領解説国語編を参考にしましょう。



教材を使って



言語活動を通して



言葉で考える力を育てる

2. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

言葉で考える資質・能力を育成するためには、受動的な学習に終始せず、子どもたちが能動的に学習を進めていく必要があります。そのためには指導者が以下のような項目をふまえ、子どもたちの**主体的・対話的で深い学びの実現**をめざすことが大切です。

1 単元で付けたい力を明確にして、ゴールにおける子どもたちの姿をイメージする

2 付けたい力を付けるのにふさわしい言語活動を、単元全体を通して設定する

3 付けたい力を付けるための指導計画と、評価規準・評価方法を設定する

4 日々の学習では、子どもたちに何のための学習なのかを意識させる

(1) 単元で付けたい力を明確にして、ゴールにおける子どもたちの姿をイメージする

国語科では、普段の生活の中で使うための言葉の力を育むことを大切にしています。どのような言葉の力を育む必要があるのかを**学習指導要領の指導事項**から取り上げて、「付けたい力」として明確に意識して指導することが大切です。その「付けたい力」が単元の目標になります。

＜小学校第3学年及び第4学年〔B 書くこと〕の指導事項＞

ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。



教材を使って、考え・理由や事例は「なぜなら～」「例えば～」「事例を挙げると～」などの言葉を使って表現されていることを学ばせます。そうすれば、相手に理由や事例が伝わるような文章を書かせることができます。

POINT

- ・指導者が作成したモデルを示したり、既習の言語活動を思い出させたりして、子どもたちも「ゴールの姿」をイメージできるようにしましょう。
- ・子どもたちは、「友だちと話す」「友だちの話を聞く」「ノートに書く」「教科書を読む」という活動に取り組みますが、それらの手段としての活動と、単元の目標を混同しないようにしましょう。

(2) 付けたい力を付けるのにふさわしい言語活動を、単元全体を通して設定する

学習指導要領に示されている言語活動例を参考にして「付けたい力」を付けるのにふさわしい言語活動を設定します。

＜小学校第3学年及び第4学年〔B 書くこと〕の言語活動例＞

ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動



理由や事例を挙げて相手に伝えることを学ばせるためには、教材を使って書き表し方を読み取らせるだけでなく、学級新聞やリーフレットを作らせて、実際に書かせながら学ばせることが大切です。

(3) 付けたい力を付けるための指導計画と、評価規準・評価方法を設定する

単元の指導計画を考える際は、①単元全体の見通しをもたせる、②教材を使って言語活動を通して学ばせる、③子どもたちに表現活動に取り組みさせるというような学習の過程になるようにします。

また、**めざす子どもの姿である評価規準**を設定し、単元や題材を通じたまとまりの中で、その実現状況を評価します。**学習・指導の内容と評価の場面を適切に組み立てていくことや、評価したことを子どもたちの指導に生かしていくことが大切です。**

単元の終わりには、わかったことや自分が成長したと思うことをノートやワークシートに**自分の学びを振り返らせ**、付けたい力がついたのかどうかを子どもが意識できるようにします。

1 単元全体の見通しをもたせる

2 教材を使って言語活動を通して学ばせる

3 子どもたちに表現活動に取り組みさせる

(4) 日々の学習では、子どもたちに何のための学習なのかを意識させる

日々の学習では、**何のための学習なのか**ということ、指導者が意識するだけでなく、子どもたちにも意識させることが大切です。

例えば、「読んだ本を紹介する」という言語活動に取り組みさせた場合、「本の内容を簡単にまとめて紹介するために、あらすじをまとめよう」のように**学習課題を具体的に示す**ことで、子どもたちは、本を読む目的を意識することができます。

また、「話し合っグループの意見を分類しよう」といった**学習活動の進め方を具体的に示す**ことで、何のために話し合うのかということ意識しながら学習活動に取り組むことができます。



POINT

学習が、自ら取り組みたいと思うような「きっかけ」になることも大切です。「本を紹介する」という言語活動が、「好きな映画を紹介する」「気に入ったコマーシャルを紹介する」などの活動に発展することをめざしていきましょう。また、「紹介」を通して学んだ力は、どのような職業に結びつかなどを子どもたちに伝えていくことも大切です。

3. 学びの積み重ね

目標達成のためには、**系統性**をふまえて指導することが大切です。例えば、3・4年生で「要約する」ことを指導するためには、1・2年生で「重要な語や文を選ぶ」ことを指導しておく必要があります。学習指導要領解説国語編には、**小学校1年生から中学校3年生までの指導事項**が一覧で示されているので参考にしてください。

また、ひとつの単元だけで、子どもたちの力が育成されるわけではありません。**学びを積み重ねていく**ことが大切です。

例えば、ある単元で、説明的文章を「はじめ・なか・おわり」（序論・本論・結論）で文章構成を捉える学習に取り組みさせた場合、次の説明的文章を使った単元では、前単元の学習を振り返らせ、文章構成に気付くような学習活動を設定することも考えられます。

また、前年度の学習で学んだことを、次年度の学年でも学ぶような単元を設定し、**反復的に繰り返しながら学習できるようにすることも工夫のひとつです。**

<小学校第3学年及び第4学年〔C 読むこと〕の指導事項>

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること



3年生では説明的文章を使って、「①紹介する本の内容」「②本を読んだ感想」「③自分の感想の理由」を紹介する「紹介文」を作成する言語活動を通して、文章を要約することを学ばせました。



4年生では文学的文章を使って、「①紹介する本の内容」「②本を読んで一番心に残ったこと」を紹介する「本の帯」を作成する言語活動を通して、文章を要約することを学ばせました。

3年生で学んだ「要約する」という内容を、4年生でも繰り返し学ぶことで、子どもたちの言葉の力を定着させることをねらっています。

学校生活では、子どもたちが話したり聞いたりする活動は日常的に行われます。学習の内容によっては、話し合いが学びを進めるための手段となる場合もあります。しかし、国語では、「話すこと・聞くこと」の力を高めることが手段ではなく目的となります。どのように話せば相手に自分の考えや意見が伝わるのかといった話し方や、相手が伝えようとすることを落とさない聞き方、自分たちで話し合いを進めるための話し合いの仕方を学びます。

1. 「話すこと・聞くこと」の指導のポイント



話したくなる・聞きたくなるような学習活動を設定しよう。

- 話したくなるような話題をもたせたり、話す内容をつくらせたりしよう。
- 特定の子どもだけの話にならないよう、子どもたちが共通理解できるような話題を取り上げよう。
- 疑問に思うことを解決するために友だちに質問するなど、聞く目的を意識させよう。
- クイズ的な要素を取り入れたり、実物や写真を使わせたりするなど、場の設定を工夫しよう。



目的に応じた話し方や聞き方、話し合いの仕方を学ばせよう。

- 教科書の教材などをモデルに、具体的な話し方や聞き方、話し合いの仕方などを捉えさせよう。
- 話を伝える相手のことを考えさせ、わかりやすく話すことを意識させよう。
- ICT 機器を活用し、録画・録音するなど、自分の話し方を振り返らせよう。
- 自分の考えとの共通点や相違点は何かを聞くなど、主体的に聞くことを意識させよう。
- 話を聞いたメモを交換して漏れがないかを見るなど、自分の聞き方を振り返らせよう。
- 話し合う際には、思考ツールなどを利用して、比較や分類、整理をさせてみよう。
- 話し合いの仕方や司会の役割などを記したカードなどを必要に応じて子どもたちに示そう。



学んだ話し方や聞き方、話し合いの仕方を活用する活動を設定しよう。

- 話したり、聞いたり、話し合ったりする学習活動を繰り返し経験できるような指導計画にしよう。
- 話したり、聞いたり、話し合ったりする学習活動の際には、相手や目的を意識させよう。
- 他教科などの学習でも、国語で学んだ話し方や聞き方、話し合いの仕方などを意識させよう。
- 子どもたちといっしょに、話し方や聞き方のきまりなどを作って日々の授業で意識させよう。

2. 「話すこと・聞くこと」の学習活動例

(1) 話し方や聞き方のモデルからイメージさせる

【Aさんの提案例】

来月の遠足のレクリエーション活動では、みんなでドッジボールをするのが良いと思います。ドッジボールは、休み時間によくしています。また、準備がかんたんです。だから、ドッジボールをすることを提案します。

【助言】

- ① 自分の直接体験（成功例や失敗例）を基に助言をする
- ② 収集した知識や情報を基に助言をする
- ③ 相手が持ち得ていない観点を基に助言をする
- ④ 相手の選択の幅を広げるように助言をする
- ⑤ 目的を再確認できるように助言をする

私は、以前レクリエーション活動の提案をしたとき、学級でとったアンケート調査の結果を基にしていれば、相手から理解力があつたような気がするわ。Aさんちぜひ、調査をしてみてもどうかな。 **【①に対応】**

場所について、インターネットで調べてみたけれど、学級のみんなでドッジボールができるような広さではないみたいだよ。だから、せまい場所でもできる方法を提案したら良いと思うよ。 **【②に対応】**

晴れたときは、ドッジボールをしても良いと思うけれど、雨が降ったときはどうするのかな。天気のことも考えて提案すると良いと思うわ。 **【③に対応】**

みんなでできる遊びは他にもいろいろ考えられるけれど、それらと比べてドッジボールが良い理由を提案の中で述べた方が良いね。 **【④に対応】**

レクリエーション活動の目的は、みんなで楽しむことよね。その目的にドッジボールをすることがあつた理由を、提案の中に入れて良いと思うわ。 **【⑤に対応】**

図1 提案を聞いて助言をすることを学ぶための資料 国立教育政策研究所『授業アイデア例』平成25年度より作成

「話すこと・聞くこと」の指導では、好事例を示した資料やモデルを使って、**子どもたちに話し方や聞き方を具体的にイメージさせる**ことが大切です。

図1は、提案を聞いて、その提案に対してどのような助言をするのかを学ぶための資料⁽¹⁾です。これらの資料を使って、友だちへの助言とはどんな言い方をするのかということ学ぶ時間を設定します。「助言といっても、どのようにすればいいのかわからない」と感じている子どもが助言について具体的にイメージできるようなるための時間です。

他にも、教科書の「学習のてびき」にあたるページには、子どもたちの「話すこと・聞くこと」のモデルが具体的に示されています。話し方や聞き方をイメージさせたり、同じような話し方をさせたりするなど、指導に生かすことができます。

(2) 自分の「話し方」や「聞き方」を振り返らせる



図2 話したことを振り返る活動

話すことや聞くことのためには、**子どもたちが、自分の「話し方」や「聞き方」を振り返るような場を設定**することが大切です。

【振り返りの観点例】

- ・自分の話したことが相手に伝わったか
- ・効果的に伝えることができたか
- ・相手の話の大事なことを落とさずに聞くことができたか

例えば、単元の終わりなどに、小グループで相互評価をさせたり、チェックシートを使ったりする時間を設定します。ICT機器を活用して自分の姿を客観的に振り返ることができるようにするのも工夫のひとつです。

参考資料

- (1) 国立教育政策研究所 『全国学力・学習状況調査 授業アイデア例』
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/index.htm>

子どもたちが自分の考えをノートに書く、本を読んだ感想を原稿用紙に書くなど、言葉を書く活動は日常的に行われます。「書くこと」の学習では、観察したこと、記録したこと、日記や手紙、感じたことや考えたことなどを書く活動を通して、文章の書き表し方を学びます。

考えたことを意見文としてまとめる、読み取った物語の文章構成を活用して物語をつくるなどの活動に取り組みせながら、どのように書けばいいのかを学ばせることが大切です。

1. 書くことの指導のポイント



書くことへの苦手意識を減らし、意欲的に書くことができるようにしよう。

- 自由な発想ができる創作や経験を生かせるようなテーマを設定して書く意欲を高めよう。
- 子どもが書いた記録やメモを使って学習を進めるなど、書くことの有用性を感じさせよう。
- 観察記録や読書新聞を書くために、記録の仕方や新聞記事の書き方を学べる単元構成にしよう。



目的に応じて文章の構成や書き表し方の工夫などの書き方を学ばせよう。

- 教科書や図書室の書籍、新聞などの書き方のモデルを使って書き方の工夫を意識させよう。
- 書き方を定着させるために、視写や、言葉の穴埋めなどの活動を取り入れてみよう。
- 理由を表す言葉、順序を表す言葉などを、意図的に使わせてみよう。
- 自分の考えを書かせる際には、理由や根拠も合わせて書くことを意識させよう。
- 目的に応じて図表やグラフを活用させたり、文章を引用させたりしてみよう。
- 自由に書かせるだけでなく、文字数や使う言葉を制限するなどの条件をつけて書かせてみよう。
- 説明、記録、報告、感想など文の種類や、目的に応じた文の構成を意識させよう。
- 書いたものを推敲させたり、書き方への助言をし合ったりして書いたものを見直させよう。



学んだ文章の構成や書き表し方の工夫を使って書く活動を設定しよう。

- 説明的文章の読み取りを活用して書かせるなど、「読むこと」と関連させてみよう。
- 子どもたちが書いたものを交流し、良さを認め合うといった書く意欲を高める場を設定しよう。
- 理科の観察記録、社会の歴史新聞、算数の解き方の説明など、他教科でも書き方を意識させよう。

2. 「書くこと」の学習活動例

(1) 日常的に書く活動に取り組みさせる

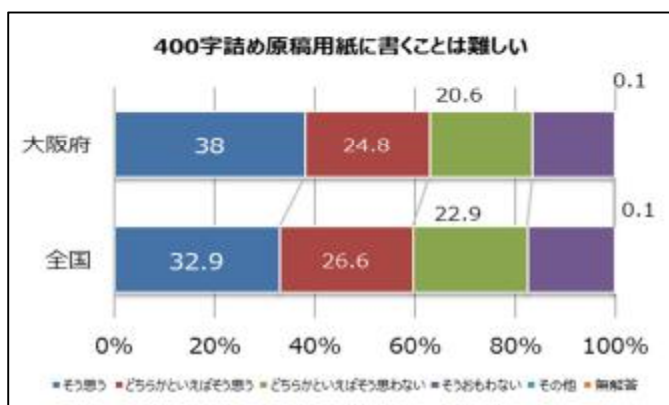


図3 平成29年度全国学力・学習状況調査質問紙調査結果より作成

大阪府では、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している割合⁽²⁾が高くなっています。

子どもたちの苦手意識を少しでも和らげるためには、日常的に書く活動に取り組みさせることも工夫のひとつです。

- 開発されたタイムマシンを一度だけ使えることになりました。あなたは過去に行きますか、未来に行きますか。どちらに行っても現在に帰ってくることはできません。
- 学校の図書館にマンガを置くことについて、あなたは賛成ですか、反対ですか。
- 家の手伝いをして、その分だけおこづかいをもらうという人がいます。たとえば「おつかいに行ったから百円もらえる」などです。このように、家の手伝いでおこづかいをもらうことについて、あなたはどう思いますか。

例えば、上記のような子どもが自由な発想を膨らませて書くことができるテーマや、日常生活と関連して書くことができるテーマを示します。書くことに苦手意識をもつ子どもが書きやすいと感じるようにすることが大切です。朝の授業前や終わりの会の後などの時間を使って書かせたり、家庭学習の課題としたりして授業以外でも書くことに取り組みさせるようにします。

また、「80字以上、100字以内で書く」「なぜなら～だからですという形式を使って書く」「根拠となる事例をあげる」などの条件をふまえて書かせると子どもたちの書く力を育むことにつながります。

(2) 理由や根拠を表す言葉を使って考えなどを書かせる

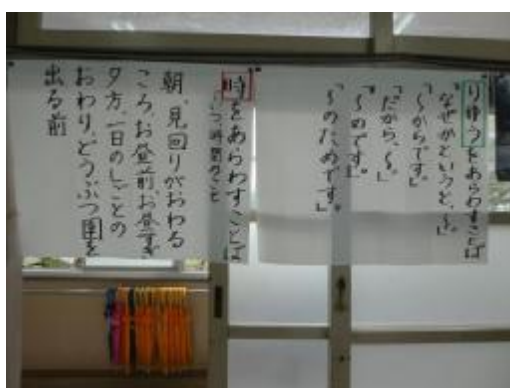


図4 教室掲示「〇〇を表す言葉」

根拠を明確にして書くことも子どもたちの課題のひとつです。低学年から、自分の考えの理由や根拠を表現するための言葉を使って書かせるようにすることが大切です。

そのための手だてとして、例えば、図4のように教室に「〇〇のことば」を掲示して、子どもたちが日常的に使うことができるようなヒントにすることができます。

子どもたちが、それらの言葉を使えるようになることが目的です。そのためには、これらの言葉を使って記述させることを継続的に指導することも必要です。また、国語以外の学習でも意識して指導することも大切です。

参考資料

(2) 大阪府教育庁『平成29年度 全国・学力学習状況調査 大阪府結果概要』平成29年9月
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/zennkoku/h29zenkoku-oosaka.html>

物語（文学的文章）の指導では、文章にどのような言葉が使われているのか、その言葉には、どのような働きがあるのかなどを読み取らせることが大切です。物語の作者は、様々な言葉を使って、場面や登場人物の様子、登場人物の心情などを読者に伝えています。また、読者のイメージを膨らませるために、様々な効果を考えて表現しています。どのような言葉を、どのように使って表現しているのかに着目させ表現の工夫に気付かせます。

1. 物語（文学的文章）の指導のポイント



主体的な学習の過程になるような単元計画にしよう。

- 学習計画を子どもに提示するなど、子どもたちが見通しを持って学習を進められるようにしよう。
- 「性格を表す言葉を探したい」など、子どもたちの読んでみたいという思いを大事にしよう。
- 並行読書に取り組みさせるなど、子どもの読んでみたいと思う物語を効果的に取り入れよう。
- 子どもの「ふしぎだなあ」「どうしてかなあ」という思いを学習課題として設定してみよう。
- 子どもに「気に入った表現を紹介するために読む」などの、物語を読む目的を意識させよう。



目的に応じて場面の様子や登場人物の行動・心情の変化などを読み取らせよう。

- 動作化や役割読みなど多様な読み方を通して、場面の様子や登場人物の心情をイメージさせよう。
- 物語の全体像をイメージしやすくするために、全文を読む時間を大事にしよう。
- 登場人物の行動を表す言葉や、心に残った言葉などに線をひかせるなど、言葉に注目させよう。
- 教材の言葉や文を、別の言葉や文で表現した際のイメージの違いを交流させてみよう。
- 登場人物の気持ちを行間に書かせたり、違う言葉で書かせたりしながらイメージを深めさせよう。
- 登場人物の心情や性格などを表す言葉を探す際には、物語全体の中から探させてみよう。
- 「●●を表すには、△△という言葉を使う」のような言葉の使い方を理解させよう。



子どもたちが読み取ったことや考えたことを表現する場を設定しよう。

- 「紹介する」「音読劇をする」といった読み取ったことを活用するような言語活動を設定しよう。
- 表現する際には、だれに対して表現するのか、どのような目的で表現するのかを意識させよう。
- 読み取ったことを根拠に考えさせ、グループや学級内で考えを交流させよう。

説明文（説明的文章）は、筆者が読者に、知識や情報などを伝えるための文章です。子どもたちに、新たな発見をもたらす文章です。文章を読むことで得た発見を大切にします。また、筆者が、読者に伝えるために、どのような事実や意見を挙げているのか、どのような文章構成で伝えようとしているのかなどを読み取っていくことも大切です。そして、子どもたちを発信者の立場に立たせ、学んだ知識や情報などの表し方や伝え方を使って、相手に伝えるということを学びます。

1. 説明文（説明的文章）の指導のポイント



子どもたちの「学びたい」という思いを大切にしよう。

- 新たな発見や驚いたことなどを大切にし、子どもの知的好奇心を引き出すようにしよう。
- 相手に何かを説明するための伝え方を学ぶという目的意識を明確にもたせよう。
- 文章と関連する題材を図書室などから探し、読書活動に結び付けよう。



目的に応じて事実と感想，意見や文章の構成などを読み取らせよう。

- 文章の「はじめ/なか/おわり（序論/本論/結論）」を捉えられるようにしよう。
- 「問いと答え」や、「対比や並列」などの、文章の構成や段落相互の関係を意識させよう。
- 事実や意見，例示などの関係や，論の進め方に注目させよう。
- 目的に応じて必要な言葉を選んだり，文章をまとめたりして要約させよう。
- くり返し使われている言葉や，題名に関連する言葉に注目させよう。
- 指示語や接続語，順序や数値を表す言葉などに注目させよう。
- 文章のまとまりの中心となる文や語句に注目させ，まとまりの要点や要旨を捉えさせよう。
- 写真や図，グラフの数値などと，文章を結びつけて読ませるようにしよう。



読み取った伝え方を活用して，相手に調べたことなどを伝える活動を設定しよう。

- 文章と関連する題材を使って，調べたことをまとめて表現するような言語活動に取り組みせよう。
- 「報告文や記録文を書く」，「新聞にまとめる」など，他教科の学習活動と関連させよう。
- 子どもたちに，だれに対して，どのような目的で表現するのかを意識させよう。

2. 説明文（説明的文章）の学習活動例

（1）説明的文章全体の構成を読み取らせる



図7 教材文全体の掲示

教科書で扱う説明的文章の多くは、「序論・本論・結論」という構成になっています。その構成を生かして、子どもたちに、説明的文章を3つのまとまりに分ける活動に取り組みさせます。

一人ひとりにどのようなまとまりになったのかを考えさせた後、「なぜ、そのまとまりに分けたのか」「どの言葉を根拠にしたのか」について話し合わせます。

話し合いを通して、**時間を表す言葉や、順序を表す言葉、接続語などに注目しながら説明的文章全体の構成を読み取らせる**ようにします。



図8 説明的文章全体の構想を読む

図7や図8は、教材文全体を拡大して子どもたちに示し、全体を捉えられるようにして、3つのまとまりに分け、文章の構成を読み取る活動に取り組む様子です。この活動を通して、「C読むこと A構造と内容の把握」の指導事項に示された「考えとそれを支える理由や事例との関係」を指導します。

（2）調べて分かったことを表現させる

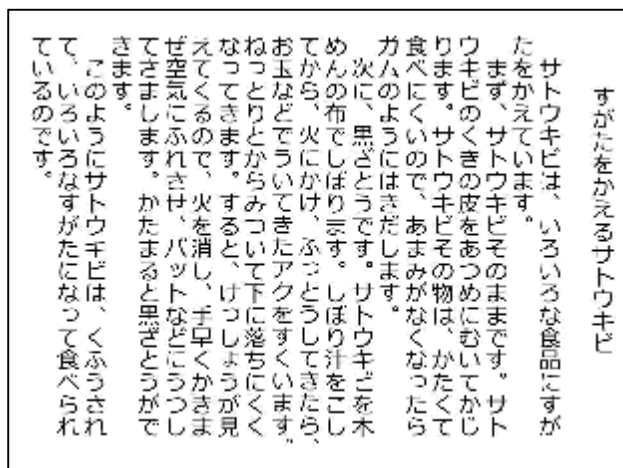


図9 サトウキビを調べて分かったことを表現した文章

図9は、「読むこと」と「書くこと」を関連させた学習の成果として府内の小学校3年生が書いた文章の一部です。**調べて分かったことを学習した説明の仕方を利用して表現**させています。

この実践では、第1次で、食べ物について調べて文章を書くという学習の見通しを持たせています。

第2次では、筆者はどのような事例をあげているのか、どのような言葉を使って読者に考えを伝えているのか、接続語の役割、筆者の考えと事例の関係や、段落相互の関係などを教材から読み取らせています。

第3次では、第2次で読み取った「～すがたをかえています」「まず」「次に」「このように」などの言葉を利用して、並行して読ませた食べ物についての図書資料を使って調べたことを文章に書かせています。参考資料⁽⁵⁾に「食べ物のひみつを伝えよう」という事例がありますので、参考にしてください。

参考資料

(5) 国立教育政策研究所 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』平成23年11月

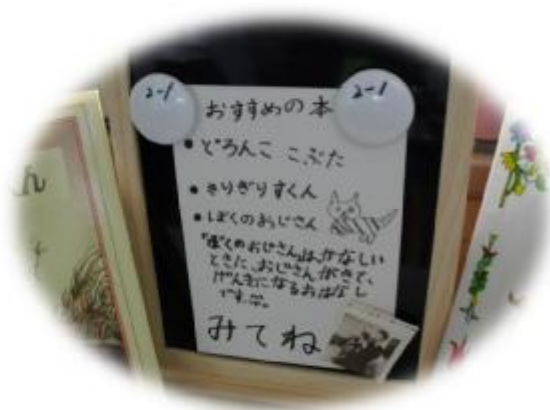
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

6 指導事例

- ・「読むこと」の指導事例【2年生】（文学的文章）
- ・「読むこと」の指導事例【3年生】（説明的文章）
- ・「読むこと」と「書くこと」を関連させた指導事例【4年生】（文学的文章）
- ・「話すこと・聞くこと」と「書くこと」を関連させた指導事例【6年生】（説明的文章）



【注】指導事例の目標及び評価規準は、平成20年版学習指導要領をもとにしています。



【子どもたちに取り組みさせる言語活動】

物語を音読劇で演じる 教材「お手紙」

【単元の目標】

- ・登場人物の特徴をつかみ、楽しんで音読や音読劇をしようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・場面の様子や、登場人物の心情について、想像しながら読むことができるようにする。（読むことウ）
- ・登場人物の気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読むことができるようにする。（読むことア）
- ・文中の主語と述語との関係を理解することができるようにする。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

【単元の評価規準】

- 【関】登場人物の特徴をつかみ、楽しんで音読や音読劇をしようとしている。
- 【読】場面の様子や登場人物の心情について、想像しながら読むことができる。
- 【読】登場人物の気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読むことができる。
- 【言】文中の主語と述語の関係を理解している。

【単元の主な指導計画】

次	時間	主な学習活動
1次	1	・絵本や教科書の読み聞かせを行い、音読劇をするという学習課題を設定する。
	1	・昨年度の音読劇のビデオを見て、音読劇のイメージをつかみ、自分たちでも試してみる。
2次	2	・主教材（教科書）のお話のあらすじを読む。
	場面時間分配に 応じ	・物語を複数の場面に分け、それぞれの場面を読みながら、音読劇をつくる。 （場面分けの例） ●設定・展開・山場・結末 ●日にちや時間の区切り ●登場人物の行動
	1	・主教材（教科書）で作った音読劇を交流する。
3次	2	・副教材（並行読書で読んだ本）のお気に入りの場面の音読劇をつくる。
	1	・副教材（並行読書で読んだ本）で作った音読劇を交流する。

指導のPoint



低学年では、同じ作者の本や、がまくんとかえるくんが出てくるお話のように、並行して読ませる本を指導者が選んでおくといでしょう。



読み方を工夫させる文を精選したり、役割分担をさせたりすると、子どもたちは誰がどんな音読の工夫をするのかをつかみやすくなります。



自分が工夫したいと思ったことができているかどうかという交流を設定し、感想を伝え合うことで、音読をさらに工夫しようしたり、自分の音読への達成感をもたせることができます。

【評価を指導に生かす】

子どもたちに音読劇を作っていく際の声の出し方で工夫してほしいことを伝えておきましょう。そうすることで、子どもたちは、声の出し方の工夫とは具体的に何をすればいいのかを意識することができます。また、自分ができていることと、まだできていないことがわかるので、自分なりの課題意識をもつことができます。



【第2次 第○時】 かえるくんが、がまくんに手紙の内容を伝えている場面の音読劇を作る学習

●【本時の目標】

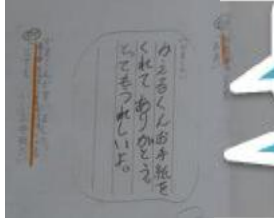
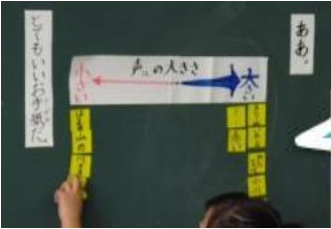

・かえるくんが、どのようにがまくんにあてた手紙の内容を伝えるのか、がまくんがどんな風に聞いているのか気持ちを想像して音読劇を作ることができる。

●【本時の評価規準】

【関】音読劇で、自分の思いを表現しようとしている。

【読】がまくんの様子を読み取り、気持ちを想像してワークシートに台詞を書いている。（ワークシート）

●【本時の展開】

時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準【観点】（評価方法）
5	本文を読み、本時のめあてを確認する。	○学級全体で取り組む音読のめあてと、前時に考えた一人ひとりの音読のめあてを振り返らせる。	
5	がまくんの「ああ」の後に続く言葉を考えてワークシートに書く。 	○挿絵や、前時までのワークシートをヒントにして、ふきだしにがまくんの台詞として書かせる。 <p>かえるくん、お手紙をくれてありがとう とってもうれしいよ。</p> <p>このお手紙、はやくほしいな。</p>	がまくんの様子を読み取り、気持ちを想像して、ワークシートに台詞を書いている。【読】（ワークシート） <p>書きにくそうにしている子どもには、机間指導をした際に、喜びや待ち遠しい気持ちを表す言葉を教えてから書かせるのもいいでしょう。</p>
5	「ああ」の読み方を考えて、声の大きさの工夫を発表する。 	○どのような声の大きさと「ああ」を読むのかを考えさせ、黒板にネームプレートを貼らせる。 <p>私は、「ああ」は大きな声で読んでみたいな・・・</p>	音読を工夫する言葉や文を精選してみると、子どもたちが、何を工夫するのか意識しやすくなりますね。
10	ペアで話し合い音読劇を作る。	○役割読みや、簡単な動作化も入れて読ませる。 ○お互いの音読のよかったところや改善点を交流させる。	音読劇で、自分の思いを表現しようとしている。【関】（観察）
10	グループで音読劇を交流する。 	○聞いてもらう人に、自分が工夫したいと思った読み方を伝えてから、音読させる。 ○相手の班の音読を参考にさせる。 <p>うれしい気持ちが伝わるように、「ああ」は大きな声で読んでみたいと思います。</p> <p>「ああ」のところは、別のところと違って、声が大きかったよ。</p>	ペアで音読を作っている時間や、グループで音読を交流している時間では、「どんな工夫をしたのか詳しく教えて？」「ほめてもらってどう感じた？」など交流を活発にするような言葉がけをするといいですね。
5	代表のグループが音読劇を発表し、全体交流する。	○よかったところは、今後の自分たちの音読劇に取り入れていくように助言する。	
5	学習を振り返る	○ワークシートに今日できたことや、次がんばってみたいことを書かせる。	14

【子どもたちに取り組みさせる言語活動】

自分で選んだ科学読み物を紹介する 教材「ありの行列」

【単元の目標】

- ・科学的な内容の本や文章に興味をもち、読んでみたい本や文章を選んで読もうとしている。（関心・意欲・態度）
- ・実験と考察に注意しながら各段落の内容を読み取り、論の進め方を適切に捉えることができる。（読むことイ）
- ・読んだ本を紹介するために、文章の内容を適切に引用したりまとめたりすることができる。（読むことエ）
- ・読んだ本や文章の内容と感想を交流し合い、友だちと自分との感じ方に違いがあることに気づく。（読むことオ）
- ・指示語や接続語には、文章の論理的な関係を作るはたらきがあることを理解することができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

【単元の評価規準】

- 【関】科学読み物に興味をもち、進んで読んでいる。
- 【読】「ありの行列」の「問い」から「答え」に至る文章の論理構成を読み取っている。
- 【読】読んだ本の内容や、自分が考えたことを文章の内容を適切に引用してまとめている。
- 【読】読んだ本や文章の内容と感想を発表し合い、友だちと感じ方に違いがあることに気づいている。
- 【言】順序を表す言葉や指示語、接続語のはたらきを理解している。

【単元の主な指導計画】

指導のPoint

次	時間	主な学習活動
1次	1	・指導者の科学読み物のクイズと紹介を聞き、言語活動のイメージや学習の見通しをもつ。 ・「ありの行列」の最初の感想を書く。
2次	1	・読んでみたい科学読み物をリストから選んで読む。 ・科学読み物の最初の感想を書く。
	3	・「ありの行列」の「問い」と「答え」に着目して、文章の構成を読み取る。 ・ウイルソンが行った実験や観察について読み取る。 ・接続語や指示語の働きを理解する。
	1	・「ありの行列」の紹介クイズを作り紹介し合う。
	1	・「ありの行列」の紹介文を作り紹介し合う。
3次	1	・自分が選んだ科学読み物の紹介クイズを作り紹介し合う。
	2	・自分が選んだ科学読み物の紹介文を作り紹介し合う。 ・単元全体の学習を振り返る。



学習計画表を掲示しておくで見通しをもって学ばせることができます。掲示するだけでなく、毎時間確認するなどして効果的に運用します。



最初の感想を有効に活用します。紹介したい内容を考えさせる活動の際に読み直させると、何に興味をもったのかを思い出すことができ、自分の考えをまとめていくための支援になります。



モデルとして、既習の説明文を使います。教材の構成を読み取ったり、指示語や接続語を理解したりする際に、既習の知識がヒントとなって学習活動への支援になります。

【評価を指導に生かす】

「カラーユニバーサルデザイン」に配慮しつつ、ワークシートにライン（※）を引いて評価します。自分は何ができたのか、足りなかったことは何だったのかが視覚的に分類されます。類似の学習活動を設定しておくことで、子どもが足りなかったことを思い出させることもできますし、指導者が見直させることで、学習活動の支援になります。

（※）教材から読み取ったことは緑のライン 考えたことは青のラインなど



【第2次 第7時】 「ありの行列」の紹介文を作って紹介しあう学習

●【本時の目標】

・「ありの行列」を紹介するために、文章の内容を適切に引用したりまとめたりすることができる。（読むこと工）

●【本時の評価規準】

【読】読んだ本の内容や、自分が考えたことを文章の内容を適切に引用してまとめている。

●【本時の展開】

時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準【観点】（評価方法）
8	「ありの行列」の音読をする。	○口の開け方や声の出し方、読む姿勢に気をつけて、音読させる。	
2	本時のめあてを確認する。 「読みたくなるようなありの行列の紹介文を書こう」	○学習計画表を確認させ、本時の学習の見通しをもたせる。 ○前時までの学習を振り返らせ、「読みたくなるような紹介文にする」ことを意識させる。	
8	2つのモデルを比較して、何を紹介すればいいの かを理解する。 	○「すがたを変える大豆」を使った紹介文のモデルを示して、紹介する内容を理解させる。 ○下記の紹介文（AとB）を比較させる。 A: 3つの段落に、同じ内容が書いてある例。 B: 3つの段落に、下記の内容が書いてある例 （①内容のまとめ ②感想 ③理由）	
		何を紹介すればいいのかをイメージしやすくするために、モデル文を使った支援をします。2つのモデルを比較させることで、自分の考えをどうまとめて紹介すればいいのかを理解させます。	
15	ワークシートの様式を参考に、紹介文を書く。 	○教科書の手引きを読み、紹介文の形式を確認させる。 ○ワークシートを配付し、教科書の手引きと対応させる。 ・書きやすいところから書かせる。	読んだ本の内容や、自分が考えたことを文章の内容を適切に引用してまとめている。【読】（ワークシート）
		下記の①から③を意識させましょう。 ①本の全体を一文で短くまとめること。 ②驚いたことや不思議だと思ったこと。 ③今まで思い込んでいたこと。	
		最初の感想を読み直させ、本文から引用した言葉、自分の気持ちを表す言葉、理由を表す言葉など着目させましょう。最初の感想を読ませることが紹介文に自分の考えをまとめていくための支援になります。	
8	紹介文をペアやグループで交流する。 	○下記の観点をもたせてから読ませる。 ・読みたくなるようにというめあてをふまえられたか。 ・①～③を意識して書いているか。 ・誤字脱字はないか。	
	読んでみたくなるような紹介文になっているよ。	授業が終わった後、子どもたちのワークシートを読み取って評価しましょう。次時からの「自分で選んだ科学読み物について紹介したいことをまとめていく活動」に取り組む際の支援につなげていくことができます。	
4	本時の学習を振り返る。	○ワークシートにチェック欄を作っておき、書き込ませる。	

●【子どもたちに取り組みさせる言語活動】

本の帯を作って物語の紹介をする 教材「一つの花」

●【単元の目標】

- ・物語を読み、心に残ったことをもとに、本の帯にして紹介しようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。（読むことウ）
- ・物語を読んで感じたことや考えたことを発表し合い、友だちとの感じ方の違いに気付くことができる。（読むことオ）
- ・物語を読み、それについて書こうとすることの中心を明確にして書くことができる。（書くことウ）
- ・動きを表す語句や様子を表す語句のように語句の類別があることを理解する。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

●【単元の評価規準】

【関】物語を読み、心に残ったことをもとに、本の帯にして紹介しようとしている。

【読】会話や心情表現、行動に着目し、人物の気持ちを考えている。

【読】物語の紹介のしかたから、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。

【書】物語を読み、心に残ったことをもとに書くことを決め、紹介するのに必要なこと（題名・作者・あらすじ・出来事・心に残った言葉や文・感想・

考え・作品の特徴など）を選んで書いている。

【言】様子を表す言葉について考え、言葉を置き換えると印象が変わることに気づいている。

●【単元の主な指導計画】

次	時間	主な学習活動
1次	1	・「物語を読んで、紹介する帯を書く」という学習課題を設定する。
	2	・登場人物の行動を中心に場面の様子や出来事を読む。
2次	1	・心に残った登場人物の行動と心情を読む。
	1	・心に残った言葉や文を読む。
	1	・本の帯に書く内容を整理し、本の帯に書く文や挿絵を考える。
	1	・教科書教材で本の帯を作成する。
	1	・作成した本の帯をクラスで交流し、良さと修正点を伝え合う。
3次	1	・並行読書で読んでいた本で、本の帯を作成する
	1	・作成した本の帯を図書室に掲示し、学習を振り返る

指導のPoint



学習課題の設定ではモデルを示してイメージをもたせます。指導者が作成したものを示すのも有効です。



教材を読み取っていく学習では、本の帯に書きたいことを見つけていくことが大切です。ポイントを絞って読み取らせませす。



書く内容を整理する学習の際には、付箋を使った交流などを入れて、自分の本の帯について見直す時間を設定することが、大切です。

●【評価を指導に生かす】

どんな本の帯を作成させたいのかを、指導者が明確にしておくことで、何を読み取らせるのかということがはっきりします。また、本の帯を作成する際の支援のポイントも明らかになり、子どもたちもゴールの姿をイメージしながら学習に意欲的に取り組むことができます。



【第2次 第6時】 本の帯に書く内容を整理し、本の帯に書く文や挿絵を考える。







●【本時の目標】

・紹介したい事柄を決め、本の帯に書く紹介する文章として書くことができる。

●【本時の評価規準】

【書】本の帯に書くことを決め、紹介するのに必要なことを選んで書いている。(ワークシート)

●【本時の展開】

時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準【観点】 (評価方法)
5	前時までの学習を振り返る。	○本の帯を書く目的や、誰にむけて書いているかを確認させる。	
5	指導者が作成したモデル事例や、市販の図書の本の帯を使って、本の帯に書く内容のイメージをもつ。 	○理由が書いてあるものと書いていないものを比べられるようなモデルを作成し、子どもたちに示す。 ○市販の本の帯から短い言葉で表したり、挿絵が入っていることなどを見つけさせる。	 課題解決に向けての見通しやイメージを子どもたちにもたせることで、学習活動に安心して取り組めるようになりますね。
10	本時のめあてを確認し、ワークシートに紹介したいことを書く。 	○おすすめポイントを3つ選んで書かせる。 ○ワークシートは、上下段に分け、上段が表面、下段が裏面になるようにしておく。	 書きにくそうにしている子どもたちには、教材を読み取った時に使ったノートを振り返らせましょう。今までの学習を思い出す時間をとってあげると、紹介したいことが見つかりますね。
5	ペアでワークシートに書いたことを伝え合う。	○全員のワークシートを見る前に、ペアでワークシートを見直す活動を入れ、書き間違いなどがあれば加筆修正できるようにする。	
10	全員がお互いのワークシートの内容を見合い、付箋を使って感想を伝え合う。 	○机の上にワークシートを置き、それぞれが見ながら歩いて回るようにする。 ○良かったことを付箋に書いてワークシートに貼らせる。	 「良かったことを見つけましょう」という指示だけでなく、子どもたちは、「よさって何？」と誤ってしまいます。交流を始める前に、交流の目的や、何について交流するのかなどを丁寧に説明しておくといいですね。
10	お互いのワークシートから見つけた良さを出し合い、全体共有し、次時の本の帯を書き始めるための見通しをもつ。	○見つけた良さを発表させ、板書することで共有できるようにする。	

●【子どもたちに取り組みさせる言語活動】

意見を聞き合って考えを深め、意見文を書く 教材「未来がよりよくあるために」

●【単元の目標】

- ・これまでの学習を振り返り、友だちの意見も聞きながら、未来がよりよくあるための自分の考えを書こうとしている。（関心・意欲・態度）
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。（話すこと・聞くことⅠ）
- ・話し合いで深めた考えをもとに、構成を工夫して、自分の意見を明確に伝える文章を書くことができる。（書くことⅠ）
- ・よりよい未来を巡る自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、図表やグラフなどを用いて書くことができる。（書くことⅡ）
- ・話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

●【単元の評価規準】

- 【関】「6年後の未来を見据えて」どのようなことをすればいいのか、友だちの意見も聞き考え、自分の考えを書こうとしている。
- 【話聞】意見がより良く伝わるためには、どこをどのようにすればいいのかを助言したり、質問や感想を述べたりしている。
- 【書】自分の考えや意見とは異なる立場に立つ他者の存在を意識し、構成を工夫して書いている。
- 【書】注釈や引用などを用いて、自分の意見が説得力をもつように書いている。
- 【言】書き言葉と話し言葉の違いに注意しながら意見文を書いている。

●【単元の主な指導計画】

次	時間	主な学習活動
1次	2	・これまでの総合的な学習で学んだことを振り返る。 ・振り返ったことをもとに、6年後の未来について自分の意見をもつ。
2次	1	・意見文の例を読み、意見文の構成について知る。 ・意見文の書き方や、説得力をもたせる工夫について知る。
3次	1	・どんな未来にしていきたいかを考え、自分の考えを書き出す。
	1	・違う立場の考えを出し合うような話し合いの仕方を知る。
	1	・互いの意見を出し合って考えを深める。
	1	・自分の考えや、反論に対する考えの根拠となる情報を調べる。
	1	・意見文の構成を考えて、自分の考えを伝えるための意見文を書く。
4次	2	・書いた意見文をグループで読み合い、考えや書き方の工夫について交流する。 ・書いた意見文を総合的な学習の担当教諭に読んでもらったコメントを交流し、学習を振り返る。

指導のPoint



意見文の書き方のモデルを示すことで、子どもたちは、自分の意見やその根拠をどのように表現すればいいのかを意識しやすくするための手だてになります。



意見文を書く前の構想段階で、自分の考えに付け足すことはないか、根拠が明確になっているかどうかなどを助言し合う交流活動を取り入れます。



付箋を使うなど、お互いの助言を文章化することで、それらの助言を参考にしながら意見文を書くことができます。

●【評価を指導に生かす】

本単元では、前年度の総合的な学習を題材にして子どもたちに意見をもたせています。このような学習に取り組みさせる際には、前学年までの担任の先生や、総合的な学習でお世話になった先生から、意見文に対しての感想をもらうことで、自分の意見文に対して振り返られるようにします。



【第3次 第6時】 互いの意見を出し合って考えを深める学習







●【本時の目標】

・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。（話すこと・聞くこと工）

●【本時の評価規準】

【話聞】意見がより良く伝わるためには、どこをどのようにすればいいのかを助言したり、質問や感想を述べたりしている。

●【本時の展開】

時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準【観点】 （評価方法）
5	前時の復習をする。 	○自分たちが書いている意見文の構成を思い出させる。 ○違う立場からの意見の出し方を学んだことを思い出させる。 前時に本時のモデルになるような話し合いを経験させます。前時に使った拡大版の付箋を提示することで本時の活動へのヒントにします。 	
5	本時のめあて「お互いの意見を出し合って考えを深めていこう」を確認する。	○前時で経験した話し合いの仕方を参考にして、互いの考えとその理由をグループ交流させる。	
25	互いの意見を聞き合い、違う立場からの意見を出し合う。  	○計画的に話し合わせるために、一人ずつ発表させる。 ○聞き手は、話し手の考えに対して、反論や異なる意見を考えながら話を聞かせる。 ○机間指導をしながら、友だちの意見に質問したり、助言をしたりするように個別に言葉がけをする。 ○話し合いが終わった後で、反論や異なる意見を付箋に書いて話し手に伝える活動を一人ずつ繰り返す。 付箋を書く活動ではなく、話し合う活動を大切にするために、話し合いが終わった後で、反論や異なる意見を書かせるようにします。  ○反論や異なる意見を考えられない子どもには、モデルを示したり、個別に考えを聞き取ったりする。	意見の意図がより良く伝わるためには、どこをどのようにすればいいのかを助言したり、質問や感想を述べたりしている。【話聞】（付箋の記述）
	【話し手】 車いす専用の道路を作れば良いと思います。 【聞き手】 でも、車いす専用の道路を作ってしまうと、せまくなってしまいますので、他の人が困ってしまうのではありませんか。	話し合う活動に困っている班の支援として、話し合いやどのような意見を出せばいいのかのモデルになるように、ひとつの班に実演をさせます。 	
5	本時の話し合いを振り返る。	○本時の話し合いについて振り返らせる。 ○感想や良かったことなどをノートに書かせる。	
5	次時の活動を確認する。	○次時は、より説得力をもたせるために、根拠となる事例を追加で調べたり、違う立場からの意見に対する考えを調べたりすることを伝える。	20